

授業概要

グローバル化時代において、英語教育の低年齢化がますます進み、2020年より小学校5・6年の「外国語活動の時間」が正式な教科「英語」となっている。小学校で教科としての英語の4技能を教えるために必要な方法と技術を身につけると同時に、小学校3・4年の外国語活動の時間にも有益な、外国語を教える際の理論・実践両面における重要項目を簡単な英語で読み、理解できるよう指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の目標と教科書活用法・日本のグローバル化と英語教育）
第 2 回	Chapter 1: Promoting a Good Relationship with Students（生徒との関係）
第 3 回	Chapter 2: Cooperation with Assistant Language Teachers（ALT との協力）
第 4 回	Chapter 3: Groupism（集団主義と個人主義）
第 5 回	Chapter 4: Inter-lingual Interference（言語間干渉）
第 6 回	Chapter 5: British English and American English（イギリス英語とアメリカ英語）
第 7 回	Chapter 6: Teaching Aids（教具）
第 8 回	Chapter 7: Using the Tablet Computer in Class（タブレットコンピュータの活用）
第 9 回	Chapter 8: Utilizing the Internet as Teaching Resources（インターネットの活用）
第 10 回	Chapter 9: Untranslatable Expressions（英語に訳せない日本語）
第 11 回	Chapter 10: Slang and Informal English Expressions（スラング表現の扱い）
第 12 回	Chapter 11: Practicing English with Other Activities（イマージョンとCLIL）
第 13 回	Chapter 12: Gestures --Non-verbal Communication（非言語コミュニケーション）
第 14 回	Chapter 13: Foreign Loan Words（外来語）
第 15 回	Chapter 14: ESL vs. EFL（第 2 言語教育と外国語教育）
第 16 回	筆記試験

到達目標

小学校高学年における教科「英語」の指導、並びに中・低学年の外国語活動の時間を担当するに足る実践的な外国語教育理論と英語の運用力を、実際の教室での授業を意識しながら身につける。

履修上の注意

「子ども英語」は、子どもに英語を教えるための理論・方法・技術を高めるための授業です。まずは、自分が教える立場に立つレベルの英語力を身につける姿勢と、常に英語でのコミュニケーションを心がける必要があります。

予習・復習

予習としては、次回授業で扱う単元の音声 CD を聴き、単語を調べておくこと。
 復習としては、学んだ項目を整理し、実践の場でどのように役立てるかを考えること。また、新たに学んだ語彙、表現は必ずその日に覚えるように努めること。音声 CD は何度も聴き、何度も発音することが必要なので、教室だけではなく、予習・復習には自宅でも声を出して発音すること。

評価方法

予習・復習の有無、授業態度を総合的に点数化し、定期試験の結果と合わせて評価する。
 定期試験 70% 総合点 30%

テキスト

- 教科書名：『Methods and Techniques of Teaching Basic English -for the Teachers of Tomorrow（児童英語教育のための方法と技術）』
- 著者名：青木雅幸（著）Peter Williams（監修）
- 出版社名：南雲堂（ISBN：9784523178927）
- 参考書：文部科学省「小学校学習指導要領」他適宜授業中に紹介。